

## トヨタ車体、ダカールラリー2019で ワン・ツーフィニッシュにより市販車部門6連覇を達成！

～たくさんのご声援ありがとうございました～

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 代表取締役・社長：増井 敬二）のラリーチームであるチームランドクルーザー・トヨタオートボデー（以下、TLC）は、2019年1月6日から1月17日(現地時間)にペルーで開催された『ダカールラリー2019ペルー』において、ランドクルーザー200シリーズをベースとしたラリー仕様車2台で参戦し、ガソリンクラス・ディーゼルクラスを含めた市販車部門において、すべてのステージで1位、2位を独占。ゴールまでその順位を堅守し、1号車（ゼッケン No.350）が優勝、2号車が（ゼッケン No.349）準優勝となり、市販車部門ワン・ツーフィニッシュで6連覇を達成しました。

号車	ゼッケン No.	ドライバー	ナビゲーター	順位		
				ディーゼルクラス*1	市販車部門*2	総合
1	350	クリスチャン・ラウイェル	ジャン・ピエール・ギヤルサン	1位	1位	24位
2	349	三浦 昂(あきら)*3	ローラン・リットロイター	2位	2位	29位

\*1:TLCは、市販車部門ディーゼルクラスにエントリー

\*2:ガソリンクラスとディーゼルクラスを合わせたカテゴリー

\*3:トヨタ車体社員(総務部広報室所属)



ゴールポディウムで6連覇を喜ぶTLCメンバー



優勝した350号車クリスチャンドライバー、ジャン・ピエールナビ

今回の大会は、ダカール史上初のペルー1カ国開催。総走行距離は前回よりも約3,000km短い、約5,600km（内競技区間は約3,100km）でしたが競技区間の約7割が砂丘で、横転やスタックから抜け出せずリタイアする競技者も多く、完走率54%という厳しい大会になりました。パワフルな改造車とは異なり、市販車ベースのランドクルーザー200で戦うTLCにとっては、走りきるだけでもハードで、全く気の抜けないステージが続きました。

スタート初日から砂丘中心で、フェシフェシ（ひじょうにソフトなパウダー状の土）やワジ（干上がった川）や岩場など、変化に富んだ道が続く大変難しいコースとなり、TLCの2台は、スタックやパンクを繰り返しながらも、お互いにサポートしあい序盤から市販車部門1、2位を維持し、順調な滑り出しとなりました。

ステージ4、5は、メカニック陣による作業や部品の供給が禁止されたマラソンステージ。フェシフェシ中心のコースをタイヤの空気圧を調整するなど、細心の注意を払いながら競技に臨み、大きなトラブルもなく、無事に1、2位を堅持したまま、前半

戦を終了しました。

休息日には、前半戦以上に難しいコースが予想される後半戦に備え、メカニック陣による念入りな点検、整備、修理が行われ、新車同様のコンディションに仕上がりました。

後半戦最初のステージ 6 は、前回大会で 1 号車がリタイアとなった難所、タナカ砂丘を通るコースで、フェシフェシと激しいアップダウンが続く中、TLC の 2 台は、スタックするとお互いに助け合い走行。ステージ 7 は、最大の難所の砂丘とフェシフェシが中心のループコース。途中、1 号車が冷却系のトラブルに見舞われ、ストップ。パーツを積んだ 2 号車が、緊急サポートし、2 台のドライバーナビゲーター 4 人で協力して修理にあたり、ロスタイムを最小限に抑え、ワン・ツー体制を守りました。ステージ 8 では、砂埃と霧で視界の悪い中でスタートとなり、タイヤの空気圧を下げながら何度もトライをしないと登りきれない厳しい砂丘など、引き続き難易度の高いコースが続きました。その後は 2 号車が、前日トラブルに見舞われた 1 号車の再度のトラブルに備え、1 号車の後ろを走行する態勢をとり、チームの総力で無事ゴールしました。

TLC は、ペルーの砂丘を想定し、この 1 年、モロッコでの走行テスト、ロシアのシルクウェイラリーでの実戦テスト、直前には再び約 1 カ月にわたるモロッコでの走行テストを行い、ドライバーの運転スキル、メカニック陣の整備スキルの向上を図るとともに、チームワークの強化も図ってまいりました。その結果、ラリー期間中においても全員が心をひとつに、やるべきことを全力でやりきり、今回のワン・ツーフイニッシュで 6 連覇達成につなげることができました。

トヨタ車体は、世界一過酷と言われる「ダカールラリー」に挑戦し続けることで、ランドクルーザーファン、ラリーファンの拡大につながるとともに、人とクルマを鍛え、もっといいランドクルーザーづくりを通じて世界中のお客さまの暮らしに笑顔をお届けしてまいります。



1 号車 (ゼッケン NO.350)



2 号車 (ゼッケン NO.349)

## 【NRJ 部門で 9 年連続優勝】

NRJ 部門(環境に配慮した代替エネルギーを使用したクルマの部門)においても、9 年連続の優勝を果たしました。当社は、植物性油から精製した BDF での参戦に取り組むことで、循環型社会の仕組みが広がっていくことを期待し、2011 年大会以降、今大会においても 2 台のラリーカーに BDF を 100%使用しています。BDF の原料となる廃食油は、TLC のラリー活動に賛同いただいたスポンサー企業各社、ならびに小中学校、高校をはじめとする近隣地域の皆さま、当社従業員などから提供を受けており、2016 年大会からは株式会社デンソー(愛知県刈谷市)が取り組む微細藻類に CO2 を吸収させて生産した藻油も原料としています。

開催年		2007 <sup>(*4)</sup>	2008	2009	2010	2011	2012-2019
BDF 使用台数 (使用台数/出場台数)		1/3 台	大会中止	1/2 台	2/2 台	2/2 台	2/2 台
TLC	参戦車両	ランドクルーザー-100		ランドクルーザー-200			
	BDF 混合比率	20%	-	20%	20%	100% <sup>(*5)</sup>	100%

\*4 : 2007 年大会は市販の BDF を使用

\*5 : 2011 年大会は一部区間のみを軽油で走行

## 【コメント】

### ◆トヨタ車体 代表取締役・社長 増井 敬二

チームの連勝タイ記録に並ぶ市販車部門 6 連覇をワン・ツーフィニッシュで達成することができ、大変うれしく思います。ペルーの大砂丘群は私たちのランドクルーザーの行く手を幾度となく阻む厳しいものでしたが、TLC のチームワークとチームを支え続けてくださったスポンサー企業の皆さま、近隣地域・学校関係者の皆さま、そして多くのファンの皆さまの気持ちが一つとなり、勝利に繋がったと感じております。ありがとうございました。

また、このダカールラリーへの挑戦は、世界のあらゆる道を走るランドクルーザーを鍛えるためにふさわしい舞台であると改めて感じております。ランドクルーザーを世界中のお客様さまに愛されるもっといいクルマに育てていくためにも、チャレンジを続けて参りたいと思います。

### ◆チーム代表 杉浦 一成 (トヨタ車体 人事・総務領域長)

チーム全員が無事にゴールにたどり着いてくれた安堵の気持ちと目標の市販車部門 6 連覇を達成してくれたことへの喜びの両方を感じています。今大会も多くのライバルたちがリタイアを余儀なくされ、TLC にとっても幾多の困難があり、決して楽な勝利ではありませんでした。この 1 年、ペルーの砂丘を想定し、厳しいトレーニングをチーム一丸となって重ねてきた成果だと思っています。中でも、2 号車ドライバーの三浦が、1 号車のサポートにまわるなど大きく成長したと感じました。

この 1 年、準備を支えてくださったスポンサー、ファンの皆さまの力が現場のエネルギーになったとメンバーからは聞いております。TLC を温かく見守り、時には力強く応援してくださった多くの皆さまに感謝申し上げます。この勝利の喜びを応援いただいた皆さまと共有できれば、嬉しく思います。

### ◆チーム監督 角谷 裕司 (トヨタ車体 総務部広報室所属社員)

今回のダカールはペルー 1 カ国の開催で、走行距離も例年に比べれば短いものでしたが、数字では表せない厳しい戦いとなりました。日々現れるペルーの険しい砂丘群はクルマにとっても、選手、メカニック、スタッフにとってもまさに限界への挑戦というべき過酷なラリーとなりました。そんな中、自分たちが 1 年間準備してきたことを信じて、集中力を切らすことなくゴールまで走りきってくれました。やりきってくれたチームメンバーと彼らを応援し続けてくれたスポンサーの皆さまをはじめとするファンの皆さまに早くこの 6 連覇を報告したい気持ちでいっぱいです。ご声援ありがとうございました。チームの連勝記録更新に向け、新たなスタートを切りたいと思います。

### ◆1号車 (ゼッケン No.350) ドライバー クリスチャン・ラヴィエル

ワン・ツーフィニッシュで市販車部門 6 連覇という最高の形で表彰台にあがることができ、最高の気分です。前回大会で無念のリタイアとなり、この 1 年はその悔しい想いを忘れることなく、トレーニングを重ねてきました。ペルーの砂丘コースは今回もものすごく難しく、パンクやスタック、部品などのトラブルに何度もあいながらも、2 号車と協力し、ときには 2 号車に助けられ、またメカニック陣による完璧な整備を受けながらゴールすることができました。最高のチームです。TLC を応援して下さる皆さん、支援をしていただいている皆さんに感謝いたします。

### ◆1号車 (ゼッケン No.350) ナビゲーター ジャン・ピエール・ギャルサン

チームの目標であった市販車部門 6 連覇に自身の優勝で貢献できたことを誇りに思います。応援いただいた皆さんには感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。今大会は毎日いつ順位が入れ替わっても、いつ自分たちがリタイアに直面してもおかしくないステージが日々続きました。走った距離以上にゴールへの道りは長く感じるものでした。しかし、1 年間ともに準備してきたチームメンバーに囲まれ、勝利への集中力を互いにカバーしあいながらゴールにつながることができたと感じています。誰一人欠けても成り立たなかったチーム力での勝利だったと思っています。

### ◆2号車 (ゼッケン No.349) ドライバー 三浦 昂 (トヨタ車体 総務部広報室所属社員)

市販車部門 6 連覇を支えることができたこと、そしてペルーを開催国に含むダカールラリーで初めて 2 台そろってのゴールを迎えることができたことに喜びを感じています。私たち 2 台のランドクルーザーも厳しい局面に何度も遭遇しました。競技

中は2台で協力して日々のゴールを目指し、キャンプ地に到着すれば必ずメカニック陣がランドクルーザーを最高の状態に整備して翌日のスタートを切らせてくれました。チーム全員になんとしても2台でゴールするという強い意思が共有されていたので、最後までクルマを信じてステアリングを握ることができたと感じています。そして応援して下さった皆さんの力が2台そろってのゴールへの自信になったことは言うまでもありません。ご声援ありがとうございました。

**(参考1)参加台数と完走台数**

	部門	クラス	参加台数	完走台数	完走率(%)
4輪	市販車 (量産車にロールバー・大容量燃料タンクなどの「安全に走る」ための装備を追加した車。主要部品の交換が禁止されている)	ガソリン	1	1	100
		ディーゼル	3	2	68
		小計	4	3	75
	改造車		96	53	55
計			100	56	56
2輪			137	75	55
小型4輪バギー			30	20	67
クアッド(4輪バギー)			26	15	58
カミオン(トラック)			41	14	34
合計			334	180	54

**(参考2)過去の戦歴**

開催年	1995-2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
使用車両	ランドクルーザー 80(1995-1998) ランドクルーザー100(1999-2004)	ランドクルーザー100				ランドクルーザー200										
成績	市販車部門ディーゼルクラス 優勝 7回	市販車部門 優勝	大会 中止	市販車部門 優勝		市販車部門 2位		市販車部門 優勝								
備考	アラコとして参戦	トヨタ車体として参戦														

6連覇

6連覇

以上

世界のくらしに 笑顔届けたい

